

会 議 録（概要）

会議の名称	令和４年度第３回ベストミックス構築部会
開催日時	令和４年１２月２１日（水） 午前１０時３０分開会 午前１１時３０分閉会
場所	Web 開催（佐渡市役所（本庁舎）会議室棟 第３会議室）
議題	（１）脱炭素先行地域の課題解決に向けた意見交換
会議の公開・非公開	公開
出席者	佐渡ガス(株) 佐渡市地域循環社会推進協議会 (株)アドバンテック 佐渡連合商工会 (株)第四北越銀行 (株)明電舎 佐渡明電サービス(株) (福)勇樹会 <事務局> ・佐渡市 総合政策課 地域エネルギー係 係長 渡部達也 総合政策課 地域エネルギー係 主事 北見航希 ・大日本コンサルタント(株)
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	０人
備考	

会議の概要（主な発言等）

1 開会

2 議題1）脱炭素先行地域の課題解決に向けた意見交換

- ・今回の雪の被害で積雪時という新たな課題が見えてきた。発電と送電は別の問題だと考えている。発電をしても、管理する側が無いと電気を供給できない。そのためには、東北電力に協力をいただき条件を提示してもらう必要がある。オフサイトの太陽光発電を行っても、それをうまく売る新電力を作らないと供給できないので販売できる体制を整えなくてはならない。
- ・新電力会社の組織や運営体制を作った事業展開が必要になるのではないかと。それについては協議を進めていく必要があるかと思う。
- ・離島約款により新電力会社は作れないのではないかと。ルールを変える、東北電力に協力いただく、などの方法があるが、どのようにすべきか。
- ・離島約款や、東北電力からの条件が出た中で議論を進めていく必要もあると思うが、主体を考えないと事業が進まないかと思う。
- ・今年、新電力会社の電力単価が3倍に変動した事例があると聞いた。そのため、民間企業のみで会社を作るのはリスクが高いと思う。市が関与して電力会社を作れば安心だと思う。バイオマスペレットなど他のエネルギーとの単価調整も必要と考えている。
- ・EMSは、脱炭素化に向けてEVなどさまざまな設備導入をして運営して行くにあたり必須である。佐渡の特徴は範囲が広く、電源的に独立しているので、需給管理が必要になってくる。そこで既設建物単位、小さな地域単位、さらに、地域をまとめて管理する上位のEMSが必要と考えている。それをやるためには全体の構想を最初に計画しないといけない。地域新電力事業は、さまざまな運営方法があるが、東北電力にもメリットがあるような形で、いくつか協業の提案ができたかと考えている。
- ・先行事業については、当初10年だった計画を半分近く短縮することを求められており、自治体主導で進めなければならないが、いろいろなハードルがある。その中で誰が何をやるか。例えば東北電力に協議の話を開始する際も誰がどの立場でスタートするかということを考えないといけない。提案として地域新電力などにこだわったものではなく、脱炭素の事業自体を立ち上げる、もしくは推進するという組織が必要ではないか。組織は小さくとも会社などの組織であるべきである。採算性が取れる形でやれないと継続性が担保されないと考えている。できる限り地元企業の会社でないと地元にお金が回ってこない、事業の利益が市外にでてしまう。具体的なスキームや事業計画を別自治体で行った事例と経験も踏まえて協議会に対して提案をしたいと思う。
- ・事業体組成の提案を次の機会にいただき、皆様からの意見を踏まえて、東北電力への意見のやりとりも行えたらと思う。